

平成30年度「みえの防災大賞」「みえの防災特別賞」「みえの防災奨励賞」選考理由

「みえの防災大賞」1団体

【南伊勢町・学校】みえけんりつみなみいせこうとうがっこうなんせいこうしゃ三重県立南伊勢高等学校南勢校舎

平成25年度「みえの防災奨励賞」受賞団体

「三重県立南伊勢高等学校南勢校舎」は、熊野灘に面したリアス式海岸沿いに立地しており、津波による甚大な被害が懸念されていることから、災害に対する正しい知識と地域防災の現状・あり方を的確に理解し、災害が発生したときに地域の一員として自らの課題や役割を見つけ主体的に行動できる人材の育成に取り組んでいます。

平成24年度から、南伊勢町等と連携し、東北でのボランティア活動や研修を実施しており、県や南伊勢町等が主催する防災イベントにおいて、防災教育の取組や東北の被災地訪問の内容を報告しています。

また、平成25年度から、南伊勢町や三重大学、NPO等と連携し、1年生の「総合的な学習の時間」において、「防災特別授業」を年間10時間実施し、タウンウォッチングや避難所の資機材等の確認、避難所運営ゲーム（HUG）などに取り組んでいます。授業の中では、非常食や簡易トイレ、レスキューシートなど防災用品を入れて携帯する「Myゼロパック」を考案し、平成28年度から、地元の福祉施設や漁業協同組合と連携し、販売を行っています。

平成29年度には、県主催の「学校防災ボランティア事業」に参加し、防災士の資格を取得した生徒3名が近隣中学校の1・2年生と3年生を対象に防災学習会の講師を務めるなど、生徒が主体となった地域への啓発活動を積極的に行っています。

さらに、新入生を対象とした避難経路・避難場所の確認、津波を想定した避難訓練、町・地域が主催する防災訓練への参加、火災を想定した避難訓練・消火訓練など、様々な防災訓練にも意欲的に取り組んでいます。

高校生の若い力は地域防災にとって大きな存在となっており、地域全体の防災意識の向上に大きく貢献していることから、他の地域や学校等への広がりが大いに期待されます。

なお、本団体は、平成25年度「みえの防災奨励賞」を受賞しています。

「みえの防災特別賞」1団体

【四日市市・その他】よっかいちしくすちくこ 四日市市楠地区子ども会育成者連絡協議会かいくせいしゃれんらくきょうぎかい

平成23年度「みえの防災奨励賞」受賞団体

「四日市市楠地区子ども会育成者連絡協議会」は、楠地区の子ども会の保護者等で構成される協議会で、三角州という地形特性から、津波や洪水による被害が懸念されるため、災害時に子どもたちが適切な行動をとり、避難所生活を送ることができるよう、平成15年から、楠地区の各種団体と連携し、小・中学生を中心とした防災啓発に取り組んでいます。

平成15年7月に、楠小学校の体育館で避難所を想定した宿泊と炊き出しを体験する「防災キャンプ」を実施したことに始まり、以後15年間活動を継続するだけでなく、「輪中の里」（桑名市）への水害研修や小学校プールでの救命ボート救助体験・着衣水泳実習、消防学校への体験入校など、その内容に工夫を凝らしながら、子どもたちが実際に体験し、防災を学ぶことができる機会づくりを行っています。

また、平成29年には、同小学校の土曜授業を活用し、市内や地区内で活躍している方々が授業を行う「1日先生」において、「子ども1日消防団」「防災スリッパ作成」等の授業を実施したり、地区の防災訓練の中で、子どもたちも黄色いハンカチを活用した安否確認に協力したりしたほか、新しく開設した地区のホームページで「子ども会 防災ひとロメモ」を随時更新するなど、新たな取組も進めています。

15年にわたる活動の地道な継続と社会福祉協議会や学校、消防団、自主防災組織など地域における他団体と連携した防災活動は、地域防災力向上の参考となるものであり、他の地域への広がりが期待されます。

なお、本団体は、平成23年度「みえの防災奨励賞」を受賞しています。

「みえの防災奨励賞」4団体（50音順で記載）

【四日市市・その他】^{ちょうかくしょうがいしゃ}聴覚障害者 ^{ちいきぼうさいはんよっかいち}地域防災班四日市

「聴覚障害者 地域防災班四日市」は、四日市市ろうあ福祉会、四日市地区手話サークル連絡協議会、三重県手話通訳問題研究会四日市ブロック、四日市手話通訳者会の4団体で構成され、平成27年から、聴覚障がい者と聴覚障がい者に関わる人がともに安全で安心できる災害対策を進めるため、どのような備えや連携が必要かを考え、地域への理解促進に取り組んでいます。

ろう者と聴者がともに参加できる防災学習会を定期的を開催し、住まいの耐震化、非常持出品、避難所での生活などさまざまなテーマで、防災講演やワークショップを実施するとともに、四日市市消防本部の防災教育センターや名古屋大学「減災館」などへの見学会を実施するなど、障がいの有無に関わらず、防災・減災について考える機会を広げる活動を行っています。

また、各地域の手話サークルを訪問し、自主防災組織関係者等の参加も得て、地域の地形やろう者・サークル員の自宅、避難所の場所などを確認する活動も行っています。

聴覚障がい者自身と聴覚障がい者に関わる人、地域が一緒になって防災について学び、ともに安全で安心できる地域づくりを進める活動は、今後の広がりが期待されるものであり、他の地域でも参考となるものです。

「天神ヶ丘自治会連合会自主防災隊」は、東西南北4つの自治会約250世帯で構成され、高齢化が進んでいる地域であることから、平成18年より、南海トラフ地震に備えた防災活動に取り組んでいます。

平成26年からは、消防団や日本赤十字社三重県支部と連携して、放水訓練や炊き出し訓練などの防災訓練を実施し、近隣の自治会へも訓練の参加依頼を行うとともに、地区自治会連合会が主催する防災訓練に参加するなど、各種団体や近隣自治会とも連携しながら訓練を継続しています。訓練においては、地域独自の「地域防災の歌」を合唱するなど、ユニークな活動も行っています。

また、避難行動要支援者への声かけ等の個別支援を行うため、「避難行動要支援者個別支援マニュアル」を作成し、避難行動要支援者に地域支援者の情報等を記載したシートを配布するとともに、避難行動要支援者に対して防災訓練への参加を呼び掛けています。

各種団体や近隣自治会と連携した防災訓練、避難行動要支援者に対する支援を行うための平時からの取組は、他の地域でも参考となるものです。

「東大淀地区まちづくり協議会」は、東大淀小学校区の5つの町・自治会約760世帯の住民等で構成される協議会で、伊勢市の北西端で伊勢湾に面し、津波による被害が懸念されることから、災害に強いまちづくりに取り組んでいます。

平成26年には、防災講演会に加え、AEDの講習や倒壊した家屋を想定したコースを目隠しして逃げる「避難シミュレーションゲーム」などを実施し、平成27年は、シェイクアウト訓練や津波避難訓練にあわせて、地震体験や応急担架作成、防災倉庫見学などの防災イベントを実施しました。その後も、平成28年は夜間の津波避難訓練、平成29年は黄色い旗を活用した津波避難訓練や炊き出し訓練を実施するなど、毎年、防災訓練の内容を変え、住民の防災意識向上を図っています。

また、鳥羽商船高等専門学校と連携して、ドローンを用いた防災・減災活動に取り組み、「ドローン運用管理規定」の策定やドローンの操縦体験会、台風時の被害状況偵察などを行っています。

毎年、同じ内容で実施しがちな防災訓練において、幅広い内容を取り入れ、変化をもたせる取組は、他の地域でも参考となるものです。

「三重県立四日市農芸高等学校」は、地域の指定避難所になっており、平成23年に、地域住民が学校へ避難する訓練が行われたことをきっかけとして、災害時に自分の身を守り、積極的に社会貢献できる人材育成に取り組むとともに、農業高校として学習成果の活用を通じた地域貢献に取り組んでいます。

平成23年から、毎年、赤十字救急法救急員の資格を持つ生活福祉コースの生徒が全校生徒を対象に三角巾包帯法の講習を実施しており、平成25年からは、地区連合自治会等と連携して、地区の住民にも参加を呼びかけ、応急手当方法の啓発、習得に取り組んでいます。

また、平成25年から、生産技術コースの生徒が収穫した玄米を一定量備蓄しており、毎年の避難訓練に合わせて、その備蓄米を活用した全校生徒及び全職員分の炊き出し訓練を実施し、平成29年からは、地区の住民にも参加を呼びかけ、一緒に炊き出しを行っています。

学校の特色を活かし、地域に頼りにされる学校を目指す防災活動は、他の学校及び地域でも参考となるものです。